

# 家 庭

## 1 家庭科の教育課程の編成

### (1) 基本的な考え方

今回の改訂において、職業に関する専門教育としての家庭科については、生活産業の各分野で必要とされる資質や能力の育成を重視するという趣旨を明確にして、その目標が示されたことにより、将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎的・基本的な知識や技術を確実に習得させるとともに、生徒一人一人の多様な個性や進路等に対応することが必要である。

したがって、学習指導要領に示された高等学校教育の目的や家庭科の目標、教育課程編成の基準を踏まえるとともに、保護者の要望や地域や、産業界との双方向の協力関係（パートナーシップ）を確立し、連携を図りながら教育活動を展開することが求められている。

### (2) 配慮すべき事項

ア 学科の目標、生徒の個性、進路希望などに応じて、適切に科目を選定し、履修単位を定める。

イ 必修科目の家庭科は、家庭に関する学科とのかかわりを考慮して、「家庭基礎」、「家庭総合」、「生活技術」から1つを選択履修させる。

ウ 専門教育の原則履修科目は、「生活産業基礎」と「課題研究」の2科目である。なお、科目の性格やねらいなどから、専門的な学習への動機付けとなる「生活産業基礎」は低学年で、問題解決能力や創造的な学習態度を育てる「課題研究」は高学年で履修させるようにする。

### (3) 特色ある教育課程の編成

#### ア 学校設定科目について

地域や学校及び生徒の実態等に対応し、新しい分野の教育を積極的に展開する必要がある場合は、学校設定科目を設け、特色ある教育課程を編成する。この場合には、教科の目標に基づき設定するという要件があること、科目の内容構成については、関係する各科目との整合性を図るよう十分に配慮する必要がある。

#### イ 編成例

家庭科に関する各分野の内容を総合的に学ぶ学科を想定し、食文化、服飾文化、保育・福祉のコースを設け、次の点に配慮した。

(ア) 生活産業にかかわる将来のスペシャリストとして必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。

(イ) 食文化コースは調理師やフードコーディネーターなど、服飾文化コースはデザイナーやファッションアドバイザーなど、保育・福祉コースは、訪問介護員などの資格取得や関連する職業に対応した科目を設定する。

(ウ) 各コースには、家庭に関する被服・食物・保育の各種技術検定、ファッション販売能力検定、CAD検定などに対応した内容を取り入れる。

科目	コース			食文化				服飾文化				保育・福祉				備考
	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計				
生活技術	4			4	4			4	4			4	(3)は必修、(4)(5)は選択			
普通科目合計	20	12	8 ~10	40 ~42	20	14	8 ~10	42 ~44	20	14	15 ~17	49 ~51				
家庭科専門科目	生活産業基礎	2		2	2			2	2			2				
	課題研究			3	3		3	3			3	3	「総合的な学習の時間」に代替			
	家庭情報処理		2	2*	2 ~4		2	2*	2 ~4		2	2*	2 ~4	普通科「情報」に代替		
	消費生活		2		2		2		2		2		(4)は、コースに関する内容			
	発達と保育	2			2	2			2	2	2	2	6			
	児童文化									2	2	2	6			
	家庭看護・福祉		2		2		2		2	3			3			
	リビングデザイン		②		0 ~2		②		0 ~2		②		0 ~2			
	服飾文化					2			2							
	被服製作					3	3	6	12		②		0 ~2			
	ファッションデザイン							6	6							
	服飾手芸		②		0 ~2		2	4	6							
	食文化			1	1											
	調理	2	5	7	14		②		0 ~2		2		2			
	栄養	3			3											
	食品			2	2											
	食品衛生			4	4											
	公衆衛生		2	2	4									「保健」(2単位)に代替		
	専門科目・学校設定科目	食品加工		②	0 ~2											
社会福祉基礎										3		3				
社会福祉制度											2	2				
社会福祉援助技術			②		0 ~2		②		0 ~2		②		0 ~2	コミュニケーションなどを中心に行う		
社会福祉実習											3	3				
調理外国語			2		2											
ファッション外国語						2		2								
専門科目合計	9	17	19 ~21	45 ~47	9	15	19 ~21	43 ~45	9	15	12 ~14	36 ~38				
ホームルーム	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3				
合計	30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90				

(2学年の選択) 各コースでは、②単位の科目から1つ選択させる。

(3学年の選択) 普通科目と「家庭情報処理」2単位を選択させる。

※今回の改訂において、保育士受験資格が廃止されたことに留意し、保育・福祉コースでは進学にも対応させる。

## 2 指導計画と内容の取り扱い

### (1) 指導計画作成上の留意点

ア 家庭に関する各学科においては、原則として家庭に関する科目に配当する総授業時間数の10分の5以上を実験・実習に配当する。また、ホームプロジェクトを実験・実習に入れる場合は、あらかじめ計画して、その科目の授業時数の10分の2以内をホームプロジェクトとして充てることができる。

イ 地域や産業界との連携を図り、就業体験を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を活用する。

### (2) 内容の取り扱い

ア 各科目の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図り、学習の効果を高めるようにする。

イ 実験・実習を行うに当たっては、被服実習室、食物実習室、保育実習などの施設・設備の定期点検と整備を実施し、安全管理や衛生管理を徹底することが必要である。

## 3 指導計画の作成

### (1) 指導計画作成に当たって

指導項目(2)「社会の変化と生活産業」を独立して扱うのではなく、(3)「生活産業と職業」の内容に組み入れて、指導計画を立てた。

科目「生活産業基礎」(例)

(1学年2単位)

指導項目	指導内容	指導のねらい	予定時間	取扱いなど
1 生活と産業 (導入)	(1) 生活産業とは (2) 家庭生活と生活産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活、衣生活、住生活、家庭経営、保育、家庭看護・福祉などと産業のかかわりを扱う。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活、衣生活、住生活、家庭経営、保育、家庭看護・福祉などと産業のかかわりを取り上げる。</li> <li>各自の生活を振り返ったり生活時間調査、家計調査等を基に、家庭生活の変化に気付かせる。</li> </ul>
2 生活産業と職業	(1) 食生活関連分野と職業 ア 社会の変化と食生活 イ 食生活の変化と生活産業のかかわり ウ 食生活関連分野と職業 エ 職業人としての必要な知識・技術と資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活、衣生活、住居、ヒューマンサービスにかかわる産業について、意義と役割を理解させる。</li> <li>社会の変化に伴い、食生活に対する消費者ニーズが多様化・高度化していることを理解させる。</li> </ul>	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院などの給食やレストランなどの外食産業を中心に、具体的に取り上げる。</li> <li>国民栄養調査や業界等の調査を活用する。</li> <li>外食産業において、消費者のニーズや消費行動に対応した商品開発やメニュー開発、調理方式、販売やサービスの方法などを取り上げる。</li> </ul>
	(2) 衣生活関連分野と職業 ア 社会の変化と衣生活 イ 衣生活の変化と生活産業のかかわり ウ 衣生活関連分野と職業 エ 職業人としての必要な知識・技術と資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活、衣生活、住居、ヒューマンサービス関連分野に関する様々な資格や職業について興味・関心をもたせる。</li> </ul>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>アパレル産業や衣服販売を中心に取り上げる。</li> <li>ファッション情報収集等のマーケティングリサーチなどを基に、消費者の多様なニーズに対応した商品企画や生産、製品となった商品の販売方法などを取り上げる。</li> </ul>

指導項目	指導内容	指導のねらい	予定時間	取扱いなど
	(3) 住生活関連分野と職業 ア 住生活の変化と生活産業のかかわり イ 住生活関連分野と職業 ウ 職業人としての必要な知識・技術と資格		10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インテリアコーディネーターなどを中心に取り上げる。</li> <li>・ 消費者のニーズや居住する人の住まいに対する考えなどからインテリアをコーディネートしたり、住宅のリフォームなどを取り上げる。</li> </ul>
	(4) ヒューマンサービス関連分野と職業 ア 少子高齢化等の社会変化とヒューマンサービス イ ヒューマンサービスと職業 ウ 職業人としての必要な知識・技術と資格		15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者サービス、保育所や児童福祉サービスなどを中心に取り上げる。</li> <li>・ 子どもや高齢者の心身を理解して接するために、保育や介護についての専門的知識、技術を取り上げる。</li> </ul>
6 職業生活と自己実現 (まとめ)	(1) 進路選択と自己実現 (2) 生活関連産業と職業資格の意義 (3) 専門科目の学習と職業生活 (4) まとめ -わたしの進路(発表会)-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業生活が自己実現につながることを認識させる。</li> <li>・ 専門科目の学習と職業生活とのかかわりや、職業における職業資格の意義を考えざるとともに、専門科目への学習意欲を高めさせる。</li> </ul>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門科目の学習と職業とのかかわりを取り上げる。</li> <li>・ 職業との職業資格に触れ、職業資格や将来のスペシャリストを目指した学習プランを立てさせる。</li> </ul>

## (2) 指導に当たって

この科目の指導に当たっては、内容(3)「生活産業と職業」に重点を置くこととし、学科の特色や生徒の実態に応じて、ア～エまでの中から選択して扱い、家庭に関する各学科に関連する産業や職業を具体的に理解させるとともに、専門的な学習への動機付けとなるようにする。また、各学科に関連する産業や職業を具体的に理解させ、勤労観、職業観の育成につなげるよう、できるだけ社会人講師の講話や産業現場等の見学、就業体験の機会を取り入れるようにする。

なお、次のような生活産業に関連する職業に、興味・関心をもたせる。

### ア 食生活関連分野

調理師、栄養士、製パン技術者、フードプランナー、フードコーディネーターなど

### イ 衣生活関連分野

デザイナー、パタンナー、ファッションアドバイザー、スタイリスト、ファッションコンサルタントなど

### ウ 住生活関連分野

インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、キッチンプランナー、マンションリフォームプランナー、DIYアドバイザーなど

### エ ヒューマンサービス関連分野

介護福祉士、訪問介護員、ケアマネジャー、保育士、ベビーシッターなど

## 4 質疑応答

問1 家庭に関する学科において、専門科目の履修をもって必修科目等の一部又は全部を替えることができる科目は何か。

専門科目の履修をもって必修科目等に替えることは、各教科・科目間の指導内容の重複を避け、教育内容の精選を図ろうとするものであり、この調整が行われることにより、より効果的で弾力的な教育課程の編成に取り組むことができる。実施に当たっては、専門科目と必修科目のそれぞれの目標や内容、代替の範囲などについて十分検討することが必要である。

代替することができる科目は、「公衆衛生」と「保健」、「家庭情報処理」と「情報A、B、C」、「課題研究」と「総合的な学習の時間」であり、この場合、必修科目の一部を減じ、その分の単位数について専門科目の履修で代替させる場合と、必修科目の単位数の全部について専門科目の履修で代替させる場合とがある。

ただし、「公衆衛生」を「保健」に代替する場合は、調理師養成を目的とする学科において代替することが望ましい。

問2 家庭に関する学科の必修科目である「課題研究」を指導する場合、どのようなことに留意すればよいか。

科目「課題研究」は、技術革新の進展や経済社会の変化に対応できる職業人の育成を図るために、応用性のある知識と技術を確実に身に付け、それを将来活用できる能力を育てること、問題解決能力や創造性を育てることなどの観点から設けられた科目であり、これまでと同様に、原則必修科目である。なお、指導に当たっては、次のような点に留意する必要がある。

- (1) 生徒が自らの課題を設定し、主体的に学習計画を立案し、実践できるように適切に支援する。
- (2) 情報通信ネットワークや教材・教具などの学習環境を整える。
- (3) 学習内容が広範囲にわたることもあることから、教員相互の協力や連携、学科の枠を超えた指導もできるようにする。
- (4) 社会人講師や就業体験を積極的に取り入れ、指導の効果を高めるようにする。
- (5) 乳幼児や高齢者などの継続的な交流を行うなどのボランティア活動や家庭クラブ活動の充実を図る。